



《こども版》 としょかんだより No. 325

2011年
9月号

わくわく本だな

富山市立図書館

今月のおすすめ



★ = 1・2年

★★ = 3・4年

★★★ = 5・6年

—あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします—

「メロウ (アイルランド^{みんな}民話) 」 (えほん) せな けいこ / 再話 ポプラ社



アイルランドにむかしからつたわる人魚^{にんぎょ}“メロウ”のおはなしです。うみであらしにあったジャックは、にげこんだいわあなでメロウに出あいました。メロウは、うみのそこにある家^{いえ}にジャックをさそいます。そこでは、うみでおぼれたにんげんのたましいがかごとじこめられていました。

「もぐらのたくはいびん」 ★ 齊藤 洋 / 作 講談社

もぐらたちのせかいはにんげんのくらしとおなじで、たくさんのおみせがあります。大いそがしのたくはいびんやさん、きょうはおまつりどおりにはいたつです。三ちょうめ三ばんちでは、にもつがとどいたおかげで、ぶじにひなまつりができました。つぎは、五ちょうめ五ばんちです。



「小さな小さな七つのおはなし」 ★★ リリアン・ムーア / 作 日本標準



フクロウの子ホーホは、おじいちゃんが物知りなのは、まほうのめがねをかけているからだと思っていました。ある時、いねむりしているおじいちゃんがめがねを落としたので、かけてみました。でも、みんなのそうだんにちっとも答えられません。どうぶつや子どもたちのたのしいお話が七つ入っています。

あたらしくはいった本

えほん



「やぎのしずかのたいへんなたいへないちにち」

田島 征三／作 偕成社

やぎのしずかが、むちゅうで草をたべていて、うっかりバツタの足をかんでしまいました。おこったバツタは、しずかのかおにしがみつきます。おどろいてはしり出すと、こんどはガマガエルをふんづけてしまいました。ガマガエルがおっぴいにはりつき、あわてたしずかは小川におちて・・・。

ものがたい

「おばけやさん① これがおばけやさんのしごとです」 ★

おかべ りか／作 偕成社



小学生のたもつは、おばけをかしたすおみせ“おばけやさん”のあるじをしています。今夜のしごとは、こんや 宝石店のほうせきてん るすばんです。たもつは、さっそく、ビンの中のおばけにしごとをたのみました。するとおばけは、「うたみつつ」とへんじをしてしごとむかいました。

「どろんこライオン」 ★ 佐々木 マキ／作 理論社



どうぶつサーカスでいつもしっぱいをして、おこられてばかりのライオン、サイ、へビは、ある夜、サーカス団をにげだしました。おなかがすいてつかれた三匹は、きのこちゃんの家たすに助けを求めます。よくあさ、だんちょう 団長が、足あとをたどっておいかけてきました。

「ムジカの森の音楽隊」 ★★ さくらい ともか／作 くもん出版

ハムスターで医者のコツブ先生が、音楽がさかんなムジカの森に引っこしてきました。ある日、アゲハやテントウムシなど音を出さない虫たちが、「音楽をやりたい」と相談にやってきました。コツブ先生のおかげで音が出せるようになったアゲハたちは、やがて、くいしんぼうのカエルの音楽会さんかに参加すると言い出します。



ものがたい

「怪盗ブラックの宝物」 ★★★ 那須 正幹／作 福音館書店



公平たちは、お化けやしきと言われている古い空き家で、暗号が書かれた紙きれとスケッチブックを見つけました。五十年前、そこにはミスター・ブラックという宝石どろぼうが住んでいて、暗号は、どうやら盗んだ宝のかくし場所を表しているようなのです。なぞときをするうちに、近くの島に手がかりがあることをつきとめます。

「チビ虫マービンは天才画家！」 ★★★

エリス・ブローチ／作 偕成社

小さな虫マービンは、絵をかいて、人間の少年ジェームズにプレゼントしました。それから二人には秘密の友情が生まれます。ところが、有名な画家デューラーの絵にそっくりだったので、大人たちは大さわぎをします。才能があるとかんちがいされたジェームズは、美術館から「デューラーの絵のにせものをかいて」とたのまれました。



ちしきの本

「土の色って、どんな色？」 栗田 宏一／作 福音館書店



「土の色」と聞いて、どんな色を思いうかべますか？茶色？黄土色？ひとことで「土の色」といっても、場所によって様々で、オレンジやグレー、むらさきもあります。東京の畑の土は黒っぽく、おおさか大阪の畑の土は白っぽいそうですよ。日本中から集めたいろいろな色の土がのっています。

「月のかがく」 えびな みつる／作 旬報社

月はどうやってたんじょうしたのでしょうか。皆既月食はどのようにしておこるの？「三日月」など月の形によって変わるよび名や月のもようなど、月にかんするいろいろな知識を絵や写真で紹介している科学絵本です。



こんげつのとくしゅう

おじいちゃん

おばあちゃんの本

9月19日(月)は敬老の日けいろうですね。
おじいさん、おばあさんが登場する本を紹介します。

「おじいちゃんのごらくごらく」 (えほん) 西本 鶏介／作 鈴木出版

「ごらくごらく」が口ぐせのおじいちゃんが、急に入院きゅうにゅういんすることに。

「グラタンおばあさんとまほうのアヒル」 ★ 安房 直子／作 小峰書店

グラタンのすきなおばあさんがぐあいかものがわるくなり、買い物に行けません。すると、グラタン皿ざらえの絵のアヒルがお皿からぬけ出して、町に出かけて行きました。

「おばあちゃんは遊びの達人」 (ちしきの本)

多田 千尋／作 ひかりのくに

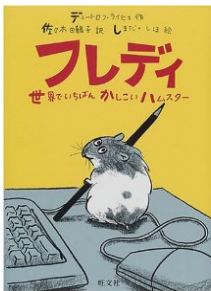
おはじき、あやとりなど、なつかしいあそびをおばあちゃんが紹介します。



シリーズしょうかい

「フレディ」シリーズ (ものがたり) ★★★

ディートロフ・ライヒェ／作 旺文社



フレディは、世界でただ一匹いっぴきの、文字を読んだりパソコンで字を書いたりできるかしこいハムスターです。いろいろな問題きや危険けんを、頭を使ってのりこえます。全部で5巻かんありますよ。

「①世界でいちばんかしこいハムスター」

ペットショップで生まれたフレディは、ゾフィーの家で飼われることになります。ゾフィーが勉強している時、フレディは字を覚えました。

「④ハムスターとゆうれいの大決戦」

ゆうれい城じょうから招待状とどが届きました。お城しろについてフレディたちを待っていたのは、のろいの大イタチと不気味な大男です。

「②世界でいちばんねらわれたハムスター」

「③ハムスター救出大作戦」 「⑤ハムスターのタイムトラベル大冒険ぼうけん」

< 編集・発行 >

富山市立図書館 富山市丸の内1丁目4-50 電話 076-432-7273